

所属・資格 地球科学科・助教

申請者氏名 中尾 有利子

| | | |
|---|---|---|
| 研究課題 | | 東京湾の貝形虫相の解明 3 |
| 報告の概要 | 研究目的 および 研究概要 | 形虫類は微小甲殻類の一分類群で、古環境復元の指標として用いられている。これには、現生貝形虫類の分布データが重要である。申請者はこれまで小櫃川河口干潟、多摩川河口干潟の調査をおこない、それぞれに固有の貝形虫相が形成されていることを明らかにしたが、東京湾に面した両干潟の貝形虫相は大きく異なっていた。正確な古環境復元と現在の沿岸環境の記録のため、未調査地域の貝形虫相の解明が急がれ、また、数年間にわたるデータの蓄積が必要である。本研究では、これまでの研究に引き続き、東京湾の貝形虫相の短期間での変化を捉えると共に、古環境復元の基礎データの収集、生物に着目した沿岸環境のモニタリングのための基礎データの収集を行う。 |
| | 研究の結果 | 平成29年度までの調査で、平成27年度の調査から産出しはじめた <i>Neocytherideis</i> 属が北側水路に多くいることが明らかになった。平成30年度は、この未記載種について詳細に調査を行った。十分な標本数が得られたため、背甲と軟体部の形態形質を明らかにした。その結果、 <i>Neocytherideis</i> 属ではなく、 <i>Semicytherura</i> 属であることが分かった。また、現地での産出状況と背甲の形態形質、顕微鏡下での観察から、本種は泥質砂からなる堆積物の表層に潜って生活するタイプであることがわかった。多摩川河口干潟では、調査場所を平成29年度調査より上流に広げた。そこでは、これまでの調査で優占していた <i>Ishizakiella miurensis</i> とともに <i>Loxoconcha kosugii</i> が半分を占める群集が確認された。また、平成29年度までと同じ調査地点では、 <i>Nipponocythere</i> 属の未記載種が幼体から生体までが再び産出した。比較のため、夷隅川河口干潟の貝形虫相を調査した。干潟の規模は小さいものの、 <i>I. miurensis</i> , <i>L. kosugii</i> , <i>Perissocytheridea japonica</i> , <i>Spinileberis pulchra</i> , <i>Dolerocyprina mukaishimensis</i> が確認された。 |
| | 研究の考察・反省 | 背甲の形態形質（発達した lamella of prismatic layer）に基づくと、小櫃川河口干潟で産出する未記載種は <i>Semicytherura</i> 属であると考えられる。また、軟体部の形態形質も <i>Semicytherura</i> 属であることを支持する。一方、表面装飾は比較的弱く、体後部は丸く caudal process を欠き、他の <i>Semicytherura</i> 属とは明確に区別され、 <i>Semicytherura</i> 属の未記載種と結論づけた。多摩川河口干潟では上流にいくほど <i>L. kosugii</i> が多くなることが分かった。小櫃川河口干潟では上流ほど <i>I. miurensis</i> が優占し、多摩川河口干潟とは異なる。これまで河口域での貝形虫の分布は、塩濃度の変化によって主に規制されると考えていたが、別の要因が大きい可能性がでてきた。他の環境データとの検討が十分に行えなかった事が反省点として挙げられる。 |
| 研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者 | <p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>The Third Asian Ostracod Meeting An undescribed ostracod species from the Obitsu River estuary, central Japan —disparity between carapace and soft parts features— August 6–10, 2018/Kanazawa,</p> <p>The Third Asian Ostracod Meeting Life cycle of <i>Ishizakiella miurensis</i> deduced from population dynamics August 6–10, 2018/Kanazawa,</p> | |